

土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調査名 砂防指定地内河川 上布野川 通常砂防事業に伴う地質調査・設計業務委託（交付金）

事業名 または 工事名

調査目的及び調査対象 砂防 砂防

ボーリング名	Bbr. No. 2		調査位置	広島県三次市布野町上布野 地内			北緯	34° 53' 16.0422"						
発注機関	広島県北部建設事務所			調査期間	2023年 9月 30日 ~ 2023年 10月 7日		東経	132° 46' 54.8738"						
調査業者名	主任技師			現場代理人	コア鑑定者		ボーリング責任者							
孔口標高	TP 265.78m		角 度			方位	北 0° 東 90° 南 180° 西 270°		地盤勾配			使用機種	東邦地下工機 D-0	
総削孔長	11.00m		エンジン	ヤンマー TF90M			ポンプ	ヤンマー EP45						

標高 (m)	深度 (m)	現場土質名 (模様)	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色	相対密度	相対稠度	地質時代名	記 事	孔内水位 / 測定月日	標準貫入試験					試験採取番号	室原位置試験	削孔月日
											深度-N値図							
263.78	2.00		玉石混じり砂礫		灰褐色	rd4		新生代第四紀	0.1mまでは腐葉土。以下、土石混堆積物に相当。玉石分はL=5~12cmで採取。その他の礫分もφ30~60mmと大径である。マトリクスは細砂からなる。コア試料のほとんどが礫分から構成されるほど礫量が多い。	10/04 3.39	12	12	9	33	300			10/4
262.28	3.50		砂礫		灰褐色	rd2		礫量、礫径とも減じる。礫分はφ30mm以下。マトリクスは粒度分布の良い砂を主体に、若干の細粒分を伴う。3mのコア試料はほぼ全量が礫分、N値に礫打ちの影響があることは明らか。		8	3	2	3	8	300			
261.18	4.60		風化流紋岩質凝灰岩		淡褐色				コア試料は無水無りのため岩組織を認めない。貫入試料は破砕かつ風化した岩のようであり、上位の砂礫と異なり、土砂分を多分に伴っている。 【D級岩盤、礫混じり土に相当】		10	6	9	25	300			
260.78	5.00		風化流紋岩質凝灰岩		灰褐色				玉石混じり砂礫状のコア。弱破砕かつ風化残りともみられる。岩片は中硬質。 【D級岩盤、礫混じり土に相当】		13	14	19	46	300			
258.18	7.60		風化流紋岩質凝灰岩		灰褐色			中生代白亜紀	砂混じりの礫状コアをなす。岩片は少し硬い。全体に破砕しており、礫の集合体のようなコアである。貫入試料には細粒土を多分に含み、礫間には土砂分に充填されている可能性が高い。 【コアはH級、軟岩Iに相当するが、N値の低下が認められるため、地層としての総合評価には注意を要す】		21	20	9	50	230	230		
255.38	10.40		風化流紋岩質凝灰岩		褐色				角礫~岩片状コア主体となり、コアの円形形状は全区間で維持される。全体に破砕しており、小割れし、礫間を砂分が充填する。 8.2~8.35m間、70°の破砕構造を認める(明瞭)。10.1~10.25m間、70°くらいの高角亀裂が密集。 【C級岩盤、軟岩IIに相当】		14	14	22	50	300	300		
254.78	11.00		風化流紋岩質凝灰岩		褐色				破砕の程度が強まり、角礫状コアと砂状コアが混在する。粘土化はあまりしておらず。貫入試料も礫状バラバラで塊状をなしていない。 【D級岩盤、軟岩Iに相当】		21	29	50	50	190			10/4